



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 62

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

柿選果場 財田町
昭和45年(1970)頃

財田では、大正時代になると西条柿にかわり、富有柿が栽培されるようになった。財田上戸川を中心に栽培された富有柿は、紅が濃く、果肉のおいしさで有名であった。昭和47(1972)年頃からは富有柿だけでなく、早生種の柿も栽培されるようになった。柿の栽培面積も昭和60(1985)年頃までは増加していった。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。〔文書館 ☎63・1010〕

「思い出の1ページ」

「これは財田町内にあった柿の共同選果場の写真ですね。一つひとつ形や色合い、傷の有無を確認しています」と話すのは、昭和41年から45年まで選果場で働いていた財田町の渡辺文枝さん(75)。

「柿の共同選果場は、10月末から12月15日までの間業務を行っていました。昭和40年頃は、毎日、町内から選果場内に収まりきれないほどの柿が箱に入って運ばれてきました。場外に野積みにしてブルーシートを被せて保管していた柿もありましたね。運ばれてから2日以内に出荷をしなければならなかったため、24時間3交代制で働いていましたよ。写真のように主に女性が並んで選果作業をしていました。多い時は10人が同時に作業をすることもありましたね。」

選果作業は、生産者ごとに柿を一つずつ、形や色合い、傷の有無を確認し、秀・優良などの等級に振り分け、レインに置いていきます。レインを流れた柿は、重さによって6段階に分かれるように設定され、階級ごとに箱詰めして売りに出していました。財田上石野や戸川で収穫されたものは、日がよく当たっておいしいと評判が良く、贈答品として人気でしたよ。

また、傷がある柿はキャリアに入れて重さを量っていました。そのキャリアがとても重いです。作業をしていたときに腰を痛めたことがありました。しかし、代わりがないため休むことができず、昼休みを利用して病院に通っては、マッサージをしてもらい、午後からの作業を続けていましたね。その後、やはり男手が必要だということになり、男性を積極的に雇うようになりました。おかげで選果作業に集中できるようになりました」と当時を振り返ります。

財田町内での柿の共同選果は、平成21年を最後に廃止となりました。生産量が減ったため、現在は道の駅などの産直市に直接出荷されることが主流となっています。



編集 後記

成人式当日、会場に集まる新成人たちは、みな喜びに溢れた表情で若々しいパワーに満ちています。将来の目標を聞くと、しっかりとした意見を返してくれました。無限の可能性を持つ20歳。自分の望む世界で、思う存分活躍してくださいね。